

「事業名:リスク・コミュニケーション工学を活用した復興学による浪江町創成 Ⅱ
～イノベーション・コースト構想の実現に向けて～」
2019年度事業の概要

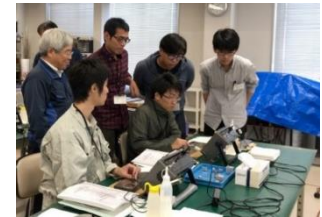
東京工業大学 連携市町村:浪江町
現地拠点:双葉郡浪江町役場内

事業のポイント

福島復興へ向け、リスク・コミュニケーション工学、除染科学、ロボット計測工学を融合し「復興学」という新しい学問領域を構築し、大学等の研究者ネットワークを活用して知の実践・集積を図り、大学院生実習や小中学校理科・ロボット・文化教室支援等を通して人材育成を行い、地域企業・自治体等と協力し産業振興に資する。

2019年度の活動内容

- リスク・コミュニケーション工学の研究の深化
- リスク・コミュニケーション工学、除染科学、ロボット計測工学を融合して復興学として切出すことを検討
- 東京工業大学のキャンパスおよびJAEA櫛葉遠隔技術開発センターにおいて廃炉研究の継続的实施
- 福島大学の研究者と連携してMCF(Magnetic Compound Fluid)を用いた新しいロボット用センサの開発研究と実用化検討
- リスク・コミュニケーション工学の除染科学として地域の環境回復手法の調査・検討の継続
- 小中学生の教育活動:理科教室、ロボット教室、文化教室の実施
- 大学生(大学院生含む)の教育活動:リスク・コミュニケーション工学実習(超音波探傷)の実施
- 大学生(大学院生含む)の教育活動:リスク・コミュニケーション工学実習(ロボット計測)の実施
- 他大学研究者と浪江町にてリスク・コミュニケーション工学の知の集積を図る活動の継続
- 産官学連携事業の実現性について検討
- リスク・コミュニケーション工学研究会の実施
- 大学等の研究者間連携ネットワークの構築の促進
- 得られた成果の国内外への発信



リスク・コミュニケーション工学実習(超音波探傷)※



リスク・コミュニケーション工学研究会の実施※



なみえ創成小学校・中学校でのロボット教室※

※上記、写真はすべて前年度の実施例

取り組みによって得られる成果

2019年度は、前年度の取り組みで得た知見を活かして、安全安心で活力ある暮らしの実現に向けた取り組みと現地教育プログラム、ロボット計測工学による廃炉研究の浪江町での知の集積、将来の環境回復へ向けた取組、大学の知の社会実装の計画と産官学連携事業の社会実験に関して、事業を推進することで、福島復興およびイノベーション・コースト構想の実現に資する。